

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成25年度 第1号
2013年7月16日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



近畿地方会各府県におけるリハ活動

京都府

京都市域包括ケアシステムと地域リハ推進事業の展開と課題

京都府リハビリテーション支援センター
京都府立医科大学神経内科 武澤 信夫

1. 総合リハビリテーション推進事業の展開

2005年に、京都府では健康福祉部リハビリテーション支援センターを発足させ、京都府立医大附属病院内に設置した。そして、6医療圏域の基幹病院に地域リハ広域支援センターを指定し、圏域連絡会をつくり保健所が事務局となって推進してきた。そして、府リハ支援センターでは地域リハ支援推進事業と併せて、2007年より高次脳機能障害支援普及事業の支援拠点となり、2008年より京都府医師会等と協働して京都府共通の大腿骨近位部骨折地域連携パス及び脳卒中地域連携パスを運用してきた。

この経験と第5次医療法改定を踏まえて、2010年には脳卒中をモデルとした「総合リハ推進プラン」を策定し、リハ供給体制整備の必要性を明確にした。2011年度より3年計画で、①人材育成：PTなど修学資金貸与、リハ専門職就業フェア、地域偏在の解消、②施設の拡充：地域リハ支援センターのリハ機能整備、回復期リハ病棟整備、訪問リハ整備、③連携体制のシステム化：地域連携パスのIT化、地域リハ・コーディネーター配置、京都市域リハ支援センターの開設を行っている。

2. 京都市域包括ケアシステムの構築

同時に、京都府では「地域包括ケアシステム推進プラン」策定し、「総合リハ推進プラン」をその一環に位置づけた。京都市域包括ケアシステムの目標は、2025年に「高齢者が住み慣れた地域で、医療、介護、福祉のサービスを組合せることで24時間、365日安心して暮らせる社会」である。2011年度よりオール京都で京都地域包括ケア推進機構を組織し、6つのプロジェクト事業

①在宅療養あんしん、②認知症ケアトータルモデル、③地域におけるリハビリ支援、④地域で支える生活支援、⑤介護予防プログラム構築一等を立ち上げた。2013年度より、京都地域包括ケア推進機構に認知症総合対策、地域リハビリ支援、看取り対策の3大プロジェクトを策定し、リハ部会を設置し、従来の地域リハ推進、リハ医等養成、先端的リハ治療を3本柱として事業化を進めている。

3. 当面のリハ課題

現在、京都府医師会が事務局となり京都府共通の大腿骨近位部骨折・脳卒中地域連携パス会議には70病院、19老健施設など111施設の参加により京都府全域での地域連携パスのIT化を推進している。同時に、回復期リハ病棟と訪問リハ事業所の整備事業、介護高齢者福祉施設等への巡回相談事業、摂食嚥下等支援事業等によりリハ供給体制整備と急性期～回復期～生活期のシームレスな連携体制づくりを目指している。そして、地域リハ支援センターに委託した地域リハコーディネーターがケアマネージャー・かかりつけ医、地域包括支援センターや地域ケア会議に協力し、「京都市域包括ケアシステム」の圏域リハ拠点になることである。今後とも、近畿地方会の先生方のご協力を心よりお願いいたします。

兵庫県

兵庫県リハビリテーション協議会の活動紹介

兵庫県リハビリテーション協議会会長
(兵庫県洲本保健所長) 柳 尚夫

日本リハ医学会近畿地方会の会員の皆さんに、当協議会を紹介いたします。設立は、1970年代の始めで、既に40年以上の歴史があります。この組織は、兵庫県立総合リハセンター長を永年勤められた澤村誠志氏の「同じノーマライゼーションの理念を追って地域で汗を流している人々が、保健・医療・福祉・教育・職業などの縦割り機構の中で分かれており、お互いの情報が欠如していると感じた。そこで、その交流の機会を作ることの重要性を感じ、それぞれの職業を越えて参加できるリハ研究会設定の必要性を感じた」(リハビリテーション研究1997年5月から引用)ことから、つくられたもので、行政、医療保健福祉関係者、リハ関連職能団体そして障害当事者団体と幅広い関係者による組織です。運営は、長年にわたって澤村氏の公私にわたる個人的ネットワークによって続けられてきましたが、2012

CONTENTS

◆近畿地方会各府県におけるリハ活動	1-2頁
◆新幹事の抱負	2頁
◆新専門医に聞く	3-5頁
◆第35回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集會会長挨拶	5頁
◆第35回近畿地方会開催概要	6頁
◆市民公開講座を開催するにあたって	6頁
◆2013年度近畿地方会研修会カレンダー	7頁
◆編集後記	7頁

年より私が会長職を引き継ぎました。私自身は、リハ医ではなく、公衆衛生と精神保健を専門とする医師であり、兵庫県行政で仕事を始めてまだ5年目ですので、澤村氏のようなカリスマ的リーダーにはなれません。そのため今後は、協議会に参加の各機関や当事者団体の代表者の方々に、主体的に参加いただくことで、県内のリハネットワークを形作ろうと考えています。またHPも開設しましたが、情報量は不十分で県民にリハへの理解を得るためには、まだまだこれからです。

<http://www.hwc.or.jp/reha-kyou/index.htm>

活動として、年に1回は県リハケア大会を開催しています。今年度は平成26年3月2日に兵庫県介護支援専門員(ケアマネ)協会が担当をして「多職種協働によるチームケアの推進～リハ

ビリテーションの可能性～」をテーマに行われる予定です。全国的には、超高齢社会を目前にして、高齢者施策としての「地域包括ケア」が熱心に議論されていますが、残念ながら障害者は、この構想からは抜け落ちています。協議会では、このような高齢者と障害者を分けて地域作りを考えるのではなく、統合された形の地域づくりを目指した考え方を具体的活動とともに、兵庫県から全国に発信できればと考えております。また、当協議会では、専門職と当事者が対等に話し合い、同じ目線で地域リハビリテーションを語ることが可能です。このような貴重な場を継続させるためにも、県内外の多くのリハ医の方々に、応援いただけることを願っております。

新幹事の抱負 **新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。**
 (平成24年度 第2号(通巻第17号)に掲載できなかった分です。分割掲載となりましたことにお詫びいたします。順不同です。)

幸田 剣 和歌山県立医科大学リハビリテーション科



私はリハ専門医を目指して初期研修を受け、研修施設でリハ医として研鑽をつみました。その後、和歌山県立医科大学で田島文博教授のご指導を受け、現在は日本リハ医学会指導責任者として後進の指導と専門医の育成を担当しております。臨床では、“患者第一主義”と“Whole body(全身)の医療”の教念に従い、徹底した急性期リハの推進に努めております。痙縮に対するボトックス治療や手術治療、脊損者を対象とした超音波での褥瘡の早期診断や座圧測定にも力を入れています。研究では、ヒトを対象とした自律神経調節や運動と免疫、急性期リハの有用性や安全性を明らかにするための循環応答の研究を行い、ISPRMをはじめ、国際学会、全国学会で発表しております。社会的活動としては、和歌山県の高次脳機能障害者支援普及事業の委員を務め、学会活動では第7回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会実行委員、第46回日本脊髄障害医学会幹事を務めました。

経験は十分とはいえませんが、近畿地方会の先生方のご指導を賜り、幹事の一人としてリハビリ医療の発展、専門医の育成や研究活動の推進に努めたいと考えております。何卒、今後とも一層のご指導ご鞭撻の程賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

宮内 義純 奈良県総合リハビリテーションセンター



私は、骨軟部腫瘍を専門領域として活動を続けて参りました。四肢の悪性腫瘍の治療といえば切・離断術が主流であった時代から患肢温存術が中心の今日までの治療の進歩をつぶさに見て参りましたが、患肢機能は完全に戻るわけではありません。今後は、急性期医療のみならず、リハビリテーションへの関わりを通じて患者さんの機能回復のお手伝いをしたいと考えております。平成23年4月から現在のリハビリテーションセンターに異動し、障害のある方の治療に目を向けて参りました。ここで感じましたことは、自分のことが自分でできない方の多いことでもあります。様々な原因はあるかと思いますが、加齢に伴う全身の脆弱化が基礎にあることは間違いなく考えます。日本は男女ともに世界に冠たる長寿国であります。しかし、自立した生活を送ることのできる健康寿命は十分ではなく、もっと延伸すべきであると共に医療者が努力すべき課題であると考えております。今後、私は整形外科医の立場から当センターにてロコモ外来を開始してロコモティブシンドロームの普及と健康寿命の延伸に努めたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。

三橋 尚志 京都大原記念病院



この度近畿地方会幹事を拝命いたしました京都大原記念病院の三橋です。1982年京都府立医科大学卒業後、整形外科医として関連病院で手術を中心に治療を行い、主に運動器のリハビリテーションに関わってきましたが、1991年現在の病院着任後はリハビリテーション部長として脳血管系にも関わるようになりました。1993年にはリハビリテーション総合承認施設の取得、2000年には回復期リハビリテーション病棟の開設を行い、2004年からは回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の理事として主に教育、研修部門を担当して参りました。2001年から6年間は京都大原記念病院の院長、2007年以降は介護老人保健施設博寿苑の施設長として、回復期リハ、生活期リハおよびその連携を中心に活動しております。現在は一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会の常任理事・研修委員長として協会の運営および会員の教育、研修を担当しており、平成25年度の担当研修事業は全職種研修会10回、医師研修会2回、病棟管理者研修会1回、診療報酬改定説明会1回の開催を予定しております。これまでの経験を生かして近畿地方会の運営に微力ながら携わりますので、よろしくお願いいたします。